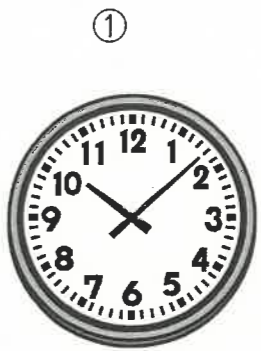


一 ただしく 絵をあらわしている ことばの () に、○をかきましよう。



① () とけい
() とけえ



② () おねいさん
() おねえさん



③ () こおり
() こうり



④ () いしゃ
() いしや



⑤ () ひよこ
() ひよこ



⑥ () きゅうり
() きゅうり

二 ただしく「わ」と「は」をつかっている ぶんの () に、○をつけましよう。

① イア () ゆきは つめたい。
() ゆきわ つめたい。

② イア () おおきい いわが ある。
() おおきい いはが ある。

③ イア () そらわ あおい。
() そらは あおい。

④ イア () みずは きれいだ。
() みずわ きれいだ。

⑤ イア () わには いける。
() はには いける。

三 ただしく「へ」と「え」をつかっている ぶんの () に、○をつけましよう。

① イア () がっこうへ いく。
() がっこうえ いく。

② イア () えきへ いく。
() へきえ いく。

③ イア () へやえ もどる。
() へやへ もどる。

四 ただしく「お」と「を」をつかっている ぶんの () に、○をつけましよう。

① イア () ほんを よむ。
() ほんお よむ。

② イア () かおを あらう。
() かをお あらう。

③ イア () うたを うたう。
() うたお うたう。

五 () に あう ことばを □から えらんで ぶんを かんせいさせましよう。

① わたし(**ほ**)みかん(**を**)たべる。
に を へ は

② くま(**ほ**)やま(**に**)すんでいる。
を は わ に

③ ぼく(**ほ**)うみ(**へ**)いく。
へ で は や

六 ていねいな かきかたに なおましよう。

れい わたしは りんごが すきだ。

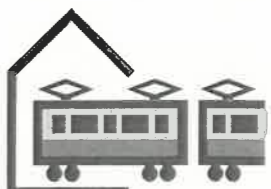
わたしは りんごが すきです。

① ぼくは やまに のぼる。

ぼくは やまに のぼります。

② ヤギは くさを たべた。

ヤギは くさを たべました。



一 つぎの文章を読んで、問題に答えましょう。

くしだんごの 絵の かき方を せつめい
します。

ア 、さらをかきます。

大きい 丸を かいて ください。

イ 、だんごを かきます。

大きい 丸の 中に、小さい 丸を 三つ、
たてに ならべて かいて ください。

ウ 、だんごに さきさった くしを

かきます。 上から 三つ目の 丸の下に、
みじかい たての 線を かいて ください。
これで くしだんごの 絵の できあがり
です。

① 文章の中の、ア、イ、ウにあてはまる、
「じゅんじよを あらわす ことば」を、
から えらんで かきましよう。

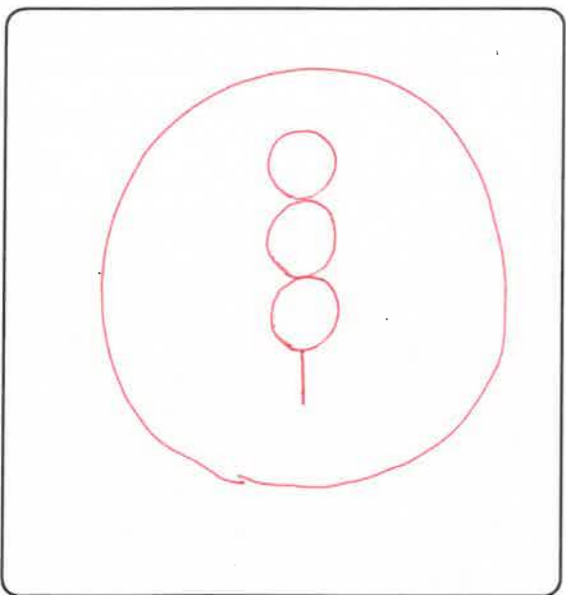
ア… はじめに

イ… つぎに

ウ… さいごに

つぎに よるに さいごに はじめに あさ

② 文章のとおりにかくしだんごの 絵を
にかきましよう。



二 つぎの文章を読んで、問題に答えましょう。

いもを たくさん しゅうかくする
ためには、よく そだつ なえを えらぶ
ことが 大切です。
くきが ふとくて、三十センチメートル
くらいのが 長さがある ものや、はに
あつみが あり こい 色を している
ものが よい なえです。
くきが ほそくて みじかい 木のや、
はの あつみが うすかったり 色が
うすかったり する ものは
さけましよう。

① よい なえに あてはまる 方の()に
○をかきましよう。

ア くきが ()ふと ()ほそい

イ はの あつみが ()うすい ()あつ

ウ はの 色が ()うすい ()こい

② つぎの ことばの はんたいの いみを
あらわすことばを ひらがなでかきましよう。
長い ↑ ↓ みじかい

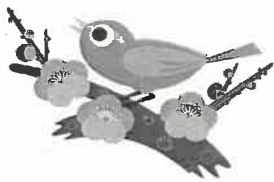
三 それぞれの文の主語と述語は どれですか。
にア、エのどれかを かきましよう。

① ア ネコが さかなを ぱくぱく たべた。

主語： ア 述語： エ

② ア きれいな とりが 木のえだに とまった。

主語： イ 述語： エ



一 つぎの文章を読んで、問題に答えましょう。

木のみきにとまったはずのセミや、草のしげみに下りたはずのバッタを、ふと見うしなうことがあります。
セミやバッタは、木のみきや草の色と見分けにくい色をしています。まわりの色と見分けにくい体の色は、てきから身をかくすのに役立ちます。身をかくすのに役立つ色のことをほご色といっています。
こん虫は、ほご色によってどのようか。てきから身をかくしているのでしょうか。

① この文章は、いくつのだん落に分かれていますか。正しいものの()に○を書きましょう。

- ア () 二つ
イ () 三つ
ウ () 四つ

※ 文章の中にある、小さな内よりのまどまりを、だん落といっています。文章の書きだしが一字下がっているところが、だん落のはじまりになります。

② 身をかくすのに役立つ色のことをなんといいいますか。に書きましょう。

答え ほご色

③ 身をかくすのに役立つ色をしているいきものを、文章から二つ見つけて、に書きましょう。

答え セミ と バッタ

④ つぎのことをばをローマ字で書きましょう。

セミ ↓ semi

バッタ ↓ batata

※ ヒント つぎのローマ字をつかうよ。

a b e i m s t

氏名

二 それぞれの文の主語と述語はどれですか。にア、エのどれかをかきましょう。

① 姉は 日曜日に 服を 買った。
主語: ア 述語: エ

② かわいい 赤ちゃんが よちよち 歩く。
主語: ア 述語: エ

主語: イ 述語: エ

三 それぞれの文の、くわしく表す言葉はどれですか。二つずつさがして、ア、エのどれかをかきましょう。

① 強い 風が グラウンドに ふいた。
ア イ ウ エ

くわしく表す言葉は ア と ウ

② 川に 大きな 魚が いた。
ア イ ウ エ

くわしく表す言葉は ア と イ

四 つぎの のこそあど言葉がさしている言葉を、書きぬきましょう。

① きつねが、ぼうしをかぶっていました。えっちゃん、きつねにいました。「それ、あたしのよ」

さしている言葉: ぼうし

② ぼうしは、はたけにとんでいきました。えっちゃんは、いそいでそこへおかつて走っていきました。

さしている言葉: はたけ

五 に動物を書いて慣用句にしましょう。

① ねこ の手もちりたい。

② うま が合う。

一 つぎの文章を読んで、問題に答えましょう。

ヤドカリの仲間には、貝がらにイソギンチャクを付けているものがあります。中には、九つものイソギンチャクを付けていた例も記録されています。

なぜ、ヤドカリは、いくつものイソギンチャクを貝がらに付けているのでしょうか。

このことを調べるために、次のような実験をしました。

まず、おなかをすかせたタコのいる水そうに、イソギンチャクを付けていないヤドカリを放します。タコはすぐにヤドカリをつかまえ、食べてしまいます。

次に、イソギンチャクを付けているヤドカリを入れてみます。タコは、ヤドカリをとらえようとしますが、イソギンチャクにふれそうになると、あわててあしを引っこめてしまいます。

実は、イソギンチャクのしよく手は、何かが付くとはりが飛び出す仕組みになっています。タコや魚はこのことをよく知っています。イソギンチャクに近づこうとはしません。それで、ヤドカリは、イソギンチャクを自分の貝がらにつけて、身を守っているのです。

では、ヤドカリは、石に付いたイソギンチャクを、どうやって自分の貝がらにうつすのでしょうか。ヤドカリが、イソギンチャクのはりでさされることはないのでしょうか。

カナダのロス博士は、ヤドカリとイソギンチャクがどのようにしていっしょになるのか、水そうで観察しました。

ヤドカリがいる水そうに、イソギンチャクを入れます。するとヤドカリは、あしでイソギンチャクの体をついたり、はさみで引っぱったりして、イソギンチャクをはがします。そして、かかえるようにして自分の貝がらの上におし付けるのです。イソギンチャクは気持ちよさそうで、はりも飛び出しません。

では、イソギンチャクはヤドカリの貝がらに付くことで、何か利益があるのでしょうか。ヤドカリについていないイソギンチャクは、ほとんど動きません。ですから、えさになる魚やエビが近くにやってくるのを待つしかありません。しかし、ヤドカリに付いていれば、いろいろな場所に移動することができるので、その結果、えさをとる機会がふえます。また、ヤドカリに付いていると、ヤドカリの食べのこしをもらうこともできるのです。

さんごしよの美しい海では、いくつものイソギンチャクを付けたヤドカリを見ることができません。ヤドカリとイソギンチャクは、たがいに助け合って生きているのです。

① 上の文章は、いくつの段落に分かれていますか。次のうち、正しいものの()に、○を書きましょう。

() 十一 () 十二 () 十三

② この文章は、「始め」「中」「終わり」の、三つのまとまりに分けて説明されています。それぞれの分け方について、正しいものの()に、○を書きましょう。

始め	第一だん落	第三だん落
中	第四だん落	第十一だん落
終わり	第十二だん落	

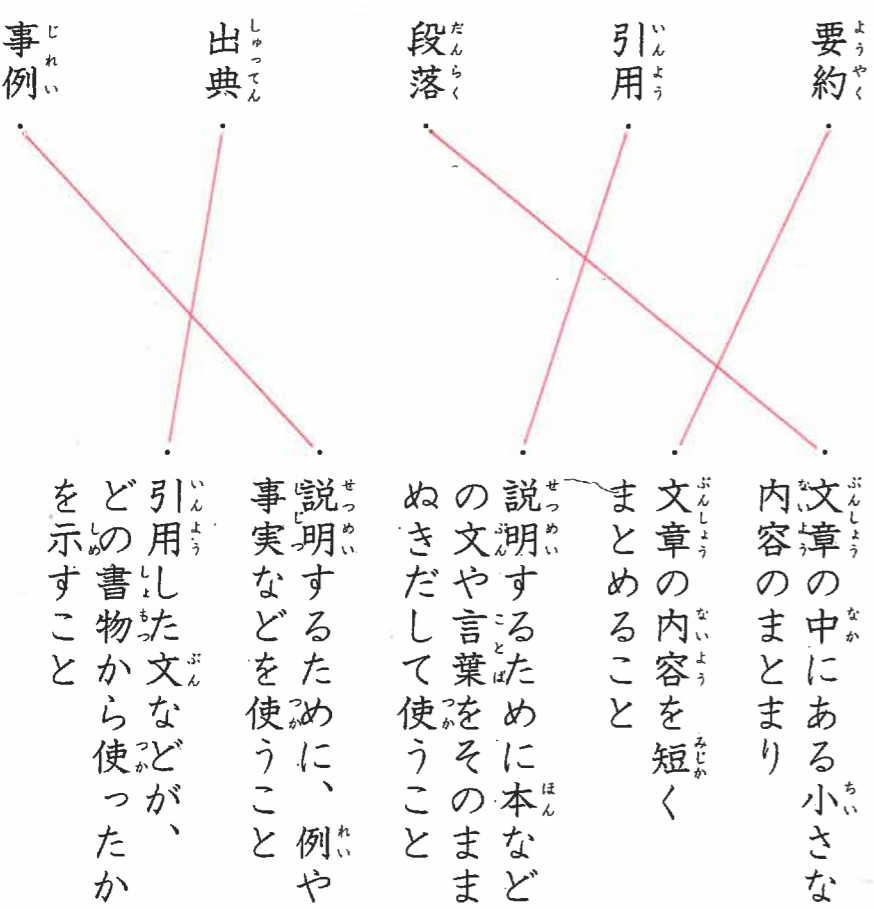
始め	第一だん落
中	第二だん落
終わり	第十二だん落

始め	第一だん落	第六だん落
中	第七だん落	第十一だん落
終わり	第十二だん落	

③ 第二だん落では「なぜ、ヤドカリは、いくつものイソギンチャクを貝がらに付けているのでしょうか。」という「問い」が書かれています。この「問い」に対する「答え」に当たるだん落はどれですか。正しいものの()に、○を書きましょう。

() 第三だん落 () 第四だん落
 () 第五だん落 () 第六だん落

二 説明文の学習で使われる用語の言葉と意味を正しく線でおすびましょう。



一 つぎの文章を読んで、問題に答えましょう

地球表面の多くは深い海でおおわれている。その海で泳ぎ回っている動物のくらしぶりを、人間は直接観察することができない。動物たちは海の中でどのようにしてくらしているのだろうか。どうしてもそれを知りたい研究者たちは、動物にデータロガーという記録計を取り付けて、動物が自分の行動データをとる「バイオロギング」という手法を考案した。

このバイオロギングを使って調べていく中で、不思議なことに気がついた。人間の場合、体の大きい大人は小さい子どもより速く歩く。だから、海でも体の大きい動物の方が、小さい動物より速く泳いでいると思っていたのに、実際にはそのとおりではなかったのだ。どうやら、体が大きいからといって、必ずしも速く泳ぐわけではない。

このことを確かめるためには、もっと大型の動物のデータが必要になる。そこで、体の大きなマッコウクジラについて調べてみた。いったいどれほど深くもぐり、どのくらいの速さで泳いでいるのだろうか。

調べたデータを見ると、マッコウクジラは、千メートル以上の深さまでもぐっていた。そのときの泳ぐ速さは、時速五・八キロメートルだった。体重十トンを超えるマッコウクジラは、ペンギンやアザラシよりもはるかに大きいから、もっと速く泳ぐと思っていたが、ペンギンやアザラシと同じような速さで泳いでいた。

このほかにも、わたしたちはさまざまな大きさの動物たちについて調べてみた。すると、これだけ体の大きさがことなるのに、泳ぐ速さは、時速四・〇から八・〇キロメートルのせまい範囲におさまっていることが分かった。

この結果から、動物たちは、えさをとるために、できるだけ楽に移動していると考えられる。そのため、いちばんよい速さが、時速四・〇から八・〇キロメートルだったのだ。

バイオロギングで調べてみると、海の中でくらす動物たちは、おどろくほど深く長くもぐることができるところに、意外とゆっくり泳いでいた。深いところにいるえさをとるために、深く長くもぐれる能力を身につけ、つかれることなく泳ぎ続けられる速さを選んでいたので。

これからも動物に取り付ける記録計は改良されて、より小型の動物まで調査できるようになるだろう。この先、どんなデータがえられるようになるのだろうか。動物たちから学べることは、まだまだたくさん残されている。

① 上の文章は、いくつの段落に分かれていますか。次のうち、正しいものの()に、○を書きましよう。

() 八 () 九 () 十

② この文章を、序論・本論・結論のまとまりで分けると、どのような構成になりますか。次のうち、正しいものの()に、○を書きましよう。

序論	第一段落
本論	第二段落～第七段落
結論	第八段落～第九段落

序論	第一段落～第二段落
本論	第三段落～第七段落
結論	第八段落～第九段落

序論	第一段落～第二段落
本論	第三段落～第八段落
結論	第九段落

③ 第四段落にある、「このこと」とは、次のうち、どのことをさしていますか。正しいものの()に○を書きましよう。

() 体の大きい大人は小さい子どもより速く歩くこと。

() 研究者たちはバイオロギングという手法を考案したこと。

() 体が大きいからといって、必ずしも速く泳ぐわけではないこと。

④ 第七段落にある、「この結果」とは、次のうち、どのことをさしていますか。正しいものの()に○を書きましよう。

() マッコウクジラは千メートル以上の深さまでもぐっていたこと。

() 体の大きい大人は小さい子どもより速く歩くこと。

() さまざまな動物たちは体の大きさがことなるのに、泳ぐ速さはせまい範囲におさまっていること。

二 書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事からや、書き手の考えの中心となる事からをまとめたものをなんといいますか。正しいものの()に○を書きましよう。

() 要約 () 事実 () 要旨